大分県 佐伯市
企業版ふるさと納税

～令和8年度　特定プロジェクト～

地域の未来を創る “あなたの想い”

～「挑戦」「思いやり」「つながり」のまち・佐伯へ～





共創の未来をつくる
まちづくりをめざして

大分県佐伯市は九州最東端に位置し、面積903平方キロメートルを誇る広大なまちです。この豊かな自然環境と地域資源を活かし、当市では「いつも こどもが まんなか」の理念のもと、

①誰もが「挑戦できる」まちづくり
②誰もが「お互いを尊重する」まちづくり
③誰もが「つながる」まちづくり

を進め、持続可能な地域社会の実現を目指します。

私たちは、すべての世代がつながり、協力し合う環境づくりに力を注いでいます。具体的には、人の暮らしに優しい環境づくりや、命を守る防災体制の整備を通じて、市民が安心して暮らせるまちを目指します。

また、地場産業の育成を通じて地域経済の活性化を図り、競争ではなく協力する仕組みを構築し、地域全体が明るく元気な空間となることを目指しています。

「こどもを未来へ」「佐伯を未来へ」つなぐため、企業の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

佐伯市長 冨 髙 国 子

企業版ふるさと納税
～特定プロジェクト集～



地域の未来を創る “あなたの想い”

～「挑戦」「思いやり」「つながり」のまち・佐伯へ～

ご支援いただける事業

「第3期佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられた幅広い分野の事業が対象です。

基本目標１　仕事を育て、仕事を創る
　オーガニックシティを支える農林水産業・商工業の振興、佐伯ならではの観光・ツーリズムの振興に取り組んでいます。

基本目標２　佐伯市への人の流れを促す
　佐伯への移住者と関係人口の増加に取り組んでいます。

基本目標３　結婚、出産・子育ての希望をかなえる
　「いつも こどもが まんなか」の理念のもと、こどもを安心して産み育てられる環境づくりに取り組んでいます。

基本目標４　街・浦・里が支え合い、高め合う
　持続可能なまちづくり、「さいき創生」を担う人材育成に取り組んでいます。

本資料でご紹介する事業

基本目標１　仕事を育て、仕事を創る	
ふるさと産業教育プロジェクト（商工振興課）	6
佐伯市農林水産祭 “祭日豊” 応援プロジェクト（水産課）	8
さいき桜まつりプロジェクト（観光課）	10
基本目標２　佐伯市への人の流れを促す	
佐伯暮らしお試し滞在プロジェクト（地域振興課）	12
基本目標３　結婚、出産・子育ての希望をかなえる	
子宝支援 (不妊治療)プロジェクト（こども福祉課）	14
地域クラブ活動支援プロジェクト（学校教育課）	16
佐伯市総合運動公園遊具広場リニューアルプロジェクト- 未来の遊び場を築く（体育保健課）	18
基本目標４　街・浦・里が支え合い、高め合う	
佐伯市民大学「令和四教堂」プロジェクト（政策企画課）	20
文化と若者の力で挑む「さいき次世代賑わい創出プロジェクト」（文化芸術交流課）	22
高齢者運転免許証自主返納応援プロジェクト（総務課）	24
空の公園（空の展望所）芝桜再生プロジェクト（環境対策課）	26
地域福祉活動支援プロジェクト（福祉保健企画課）	28
佐伯市「再起」支援プロジェクト（福祉保健企画課）	30
高齢者見守り支援プロジェクト（高齢者福祉課）	32
まちなかで”ひとよこい” 佐伯へ”人よ来い”ベンチ設置プロジェクト（都市計画課）	34

基本目標4　街・浦・里が支え合い、高め合う	
「かっぱ橋」復旧プロジェクト（建設保全課）	36
未来につなぐ水の安心プロジェクト（営業課）	38
命を守る防災プロジェクト（防災危機管理課）	40
多目的防災車両更新プロジェクト（防災危機管理課）	42
地域の安全を支える「消防団積載車更新プロジェクト」（消防総務課）	44
豊後二見ヶ浦プロジェクト（上浦振興局）	46
夏宵まつり☆弥生プロジェクト（弥生振興局）	48
「茶育」イノベーションによる新価値創造プロジェクト（本匠振興局）	50
夜桜ライトアッププロジェクト（宇目振興局）	52
なおかわ秋色フェスタプロジェクト（直川振興局）	54
つるみ御用聞プロジェクト（鶴見振興局）	56
米水津おさかなまつりプロジェクト（米水津振興局）	58
葛原神楽保存・継承プロジェクト（蒲江振興局）	60

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

ふるさと産業教育プロジェクト



佐伯の未来を支える人材の育成

本市では、少子高齢化に加え、若者の進学や就職による都市部流出により、今後の産業を担う人材不足が大きな課題となっています。

地元産業の仕事や魅力を知らないまま進学・就職することで、「地元で働く」という選択肢が見えにくい状況となっています。

そこで、見学や体験を通して地元企業の認知度アップとこどもの地元愛・定着意識の醸成を図り、将来を担う若年者の地元就職のきっかけづくりを目指しています。

「ふるさと産業教育事業」とは…

「ふるさと産業教育事業」は、地元企業と学校等を繋ぎ、企業の有する知恵や技術等の地域固有の資源を学校や児童生徒そして保護者に認識してもらい、将来の佐伯の産業を担うこどもたちの育成を目的に、令和8年度から新たに取り組みます。





移動手段に要する経費

市内には、小学校18校、中学校12校の合わせて30校があり、小学校4年生から6年生の児童約1,300人、中学校の生徒約1,500人が学校に通っています。

本市の面積は、903平方キロメートルと九州一広く、各地域に小中学校が点在しているため、学年やクラス単位で移動し企業見学や職場体験を行うためには貸切バスなどの移動手段を確保する必要がありますが、燃料費や人件費の高騰等の要因により事業の実施には多額の予算が必要となっています。

ふるさと産業教育事業を続ける理由

ふるさと産業教育事業は単年度での効果は薄く、学年ごとや段階的に体験を積むことで地元企業との関係や理解が深まるため、「継続」することに意義のある事業となります。



ご寄附の目標金額

1,000万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。







担当者メッセージ



佐伯市では、地場企業と学校とをつなぎ、地場企業の有する技術・魅力を児童・生徒や教員等に知ってもらうことで、将来、佐伯市の振興及び発展を担うこどもたちを育てることを目的とし「ふるさと産業教育」に取り組んでいます。企業の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：商工観光部　商工振興課　こだま

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

佐伯市農林水産祭 “祭日豊”応援プロジェクト









地域産品の魅力発信、消費拡大による生産者を支援したい！

収穫の秋！大漁の秋！！食欲の秋！！！九州最大の面積（903.14k㎡）を誇る佐伯市の秋の味覚が一堂に集うイベント！

佐伯市の秋の美味しい農林水産物を多くの方に知ってもらいたい！衰退する農林水産業を守りたい！そんな想いから、周辺地域と連携して、農林水産物の消費拡大とPR！そして、地域活性化を目指して、「佐伯市農林水産祭“祭日豊”」を開催します。

佐伯市農林水産祭“祭日豊”とは

佐伯市農林水産祭 “祭日豊”とは、日豊海岸の5市（佐伯市・津久見市・臼杵市・延岡市・日向市）が県を越えて繋がり、各市自慢の豊かな農林水産物の魅力（味力）を発信し、地域活性化に繋げることを目的に令和7年度に初めて開催しました。

会場では、食べる・飲むに特化した「佐伯市農林水産祭」や、古くから日豊海岸5市を拠点に活動する郷土芸能やダンスパフォーマンスによる「ステージイベント」、サッカー・野球などの交流試合等を行う「スポーツイベント」、さらには現代アーティストによる空間アートなどの「アートイベント」を実施し、約7,400人の来場者でにぎわいました。



県を越えて繋がり消費拡大による生産者を支援したい！

佐伯市農林水産祭“は市内のみならず、日豊海岸の5市が繋がり、農林水産物の販売など一体となって味力を発信しています。しかしながら昨今の物価高騰により、会場設営費用、駐車場警備の委託料、人件費等、様々な物価が高騰しており、すべてを行政予算で賄うことは難しいため、今後も継続して、一次産品のPRを行い消費拡大により生産者を支援していくには、皆様のご支援が必要となります。

なぜ佐伯市農林水産祭 “祭日豊” を続けたいのか

“祭日豊”の目的は、農林水産業の営みを持続可能なものにすること。

生産者の命が吹き込まれた一次産品を通じて、生産者と消費者が直接触れ合い、交流することで、生産者の更なる意欲の向上が期待され、農林水産業の就業・継承につながる場として、今後も継続していけるよう、皆様のご支援を賜りたいと思っています。



ご寄附の目標金額

300万円が目標です。
（佐伯市は、実施団体へ事業費の補助を行います。）

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市農林水産祭“祭日豊”応援プロジェクトは、佐伯市の魅力をPR・発信する重要な取組です。豊かな漁場から生まれる天然魚介類や地元特産品を紹介し、生産者を支援します。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：農林水産部　水産課　させべ



佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

さいき桜まつりプロジェクト

大分県佐伯市　春を告げる「さいき桜まつり」

「さいき桜まつり」は、70年以上続く歴史ある祭りで、佐伯市の春の訪れを告げる最大のイベントです。

「さいき桜まつり」とは・・・

「さいき桜まつり」は、市民と行政が一体となり、市内外に本市の魅力を発信する誘客イベントです。さいき城山桜ホールや旧佐伯文化会館下の広場をメイン会場に、ステージイベントのほか、初代佐伯藩の毛利高政公の参勤交代を模した「佐伯藩大名行列・明神太鼓」や、「佐伯藩弁財天様参り菊姫行列」など様々な催しを実施し、令和7年は約58,000人の来場者でにぎわいました。

誘客による交流人口の増加や市内各地域への誘客を図るとともに、市民一人ひとりが市内各地域の伝統文化や市内外で活躍する本市に根づいた団体等について知り、学び、体験することで、郷土への誇りと愛着を持って観光客に接することができる人材、心のこもったおもてなしができる人材を育成することを目的として毎年春に開催しています。

大分 さいき 桜まつり OITA SAIKI





市内外から「さいき桜まつり」を盛り上げる！

「さいき桜まつり」は、市内の方のみならず、市外の方にも多くお越しいただいています。今後、市内の方だけでなく市外の方にもこの祭りを一体となって盛り上げていただきたいと思っており、市内外の老若男女問わず楽しめ、盛り上がるような企画を行うためには、皆様のご支援が必要となります。

お力添えいただき、一緒にさいき桜まつりを盛り上げていただければと考えています。





ご寄附の目標金額

さいき桜まつり企画運営費用**300万円**が目標です。
（佐伯市は、実施団体へ事業費の補助を行います。）

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②さいき桜まつりの広告チラシに企業名等を入れさせていただきます。（寄附金額により文字の大きさや企業ロゴを入れさせていただきます。）
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



「さいき桜まつり」は、交流人口の増加や市内各地域への誘客を目的として開催し、市内外から多くのお客様にお越しいただき、佐伯市を代表する祭りとなっています。これからさらに市内外老若男女問わず一体となって盛り上がり、パワーアップした祭りを開催できることを期待しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：商工観光部　観光課　いとう



佐伯市を、見てもらいたい！ 知ってもらいたい！ ファンになって、移住してもらいたい！

本市では、市外や県外への転出による人口減少が進む中、少子高齢化による地域力の減退、人口減少による過疎化の進展が深刻な問題となっています。

また、市内周辺部から中心部への転居による人口移動が進んでいることも起因して、特に旧町村部での過疎化、少子高齢化は顕著で、農業後継者不足による「耕作放棄地」の増加に加え、「空き家の急増」が深刻な問題となっています。

このような状況ですが、全国的には都市部から地方への移住者は拡大傾向にあることから、移住希望者の関係人口創出や移住者増加に繋げるため、「佐伯市お試し滞在補助」を実施しています。

お試し滞在補助金とは

移住を目的として本市へ訪問して、移住活動をした方に対して、宿泊費と交通費の一部を補助する「佐伯市お試し滞在補助金」を交付しています。

田舎暮らしを始める方に不安なく過ごしていただくために、本市での住居や生活に必要な病院・スーパー・学校などの施設を確認することで、本市への移住をイメージしていただけます。



大水車の郷で、家族で「そば打ち」体験中



自らが打ったそばが完成

お試し滞在補助金の概要

【補助対象者】　〇大分県外にお住まいの方で、60歳以下の成年者（高校生を除く）の方
〇移住活動を行うため佐伯市を訪れる方
※移住活動・・・ 市役所での相談及び市内宅建業者を通じて、物件の現地確認を2日以上実施

【補助の内容】

〇宿泊費補助・・・1人1泊最大4,000円、中学生まで最大3,000円、（飲食代対象外）最大6泊
〇令和8年度からは長期滞在を促すため、補助対象期間を3泊から6泊に拡充

〇交通費補助・・・申請者及び同行する世帯員の交通費を2名分（成人のみ）まで補助　【定額・下表参照】

補助対象者の現住所地	交通費補助額
宮崎県	3,000円
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県	5,000円
山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、広島県、岡山県、島根県、鳥取県	7,000円
大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県	15,000円
上記以外の都道府県	20,000円

『お試し滞在補助金』をなぜ続けたいのか

本市は、大分県内でも最南端に位置し、都市部からのアクセスが良くありません。

しかし、海山をはじめとした自然豊かで食の宝庫の佐伯市への移住者は、わずかながら増加傾向になっています。

今後、移住先に選んでいただくためには、移住を検討している方に、まずは佐伯市を訪れていただくことが重要です。

「佐伯市お試し滞在補助金」を活用し、本市の状況を知っていただいたうえで「安心して今後の移住に繋げてほしい」、「佐伯市に是非移住してほしい」と考えています。



移住相談会での本市のPRタイム

ご寄附の目標金額

50万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②移住者向けポータルサイト「さいき暮らしな日“（び）」や、お試し滞在補助金のチラシに掲載し発信します。
③活動の案内や報告等に協力企業として広報します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市の移住の取組は、大分県などが毎月主催する東京・大阪・福岡での移住相談会やオンライン相談会に参加し、移住を検討する方々に対し、本市の移住施策や移住後の支援情報をご説明しています。

あわせて、「佐伯市お試し滞在補助金」の活用を、ご説明しています。

つきましては、本市の関係人口創出及び移住者増加の取組に対し、各企業様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：地域振興部　地域振興課　おかもと



子宝支援(不妊治療)プロジェクト

希望する人が、安心して産み育てられる環境づくりを進めたい！
不妊治療を行っている夫婦の経済的負担の軽減を図りたい！

本市は、「いつも こどもが まんなか」の理念のもと、子育ての環境づくりに取り組んできました。女性一人当たりの平均こども数を示す合計特殊出生率は、合併以降緩やかな上昇傾向にありましたが、近年は下降傾向にあります。

また、人口減少に伴う親世代の減少などから、出生数も減少の傾向です。

そうした現状においては、結婚の段階から希望をかなえ、妊娠・出産・子育てに対する支援を切れ目なく実施するとともに、本市で生まれるこどもたちの育ちを支える取組が重要です。

また、支援を実施するためには、子育て支援サービス情報の十分な周知も引き続き考えていく必要があります。

子宝支援事業とは

不妊治療（医師が必要と認めた治療に限る。以下同じ。）を受けている夫婦（法律上の婚姻をしている夫婦をいう。以下同じ。）の経済的負担を少しでもやわらげ、もって少子化対策の推進を図るため、当該夫婦に対し、佐伯市子宝支援事業助成金（以下「助成金」という。）を従来の20万円から30万円へと引き上げました。

佐伯市ではこどもを産み育てたいという切実な願いを持つご夫婦を全力で応援します。





不妊治療を行っている夫婦の経済的負担の軽減について

昨今の物価高騰などにより、子育て世代等の経済的な負担が多い状況の中で、結婚の段階から希望をかなえ、妊娠・出産・子育てに対する支援を切れ目なく行う取組が、今後も重要だと考えています。

なぜ子宝支援事業を続けたいのか

合併以降、市の合計特殊出生率は緩やかな上昇傾向にありましたが、近年は下降傾向にあります。また、人口減少に伴い親世代の数も減少しているため、出生数の減少が懸念されています。そのため、子宝支援事業は、今後の少子化対策において極めて重要な取組です。

佐伯市では、利用する皆様にとって大きな助けとなるように、助成の対象となる治療を幅広く設定し、助成額の上限を30万円、助成回数の上限を設定しておらず、大分県内でも特に手厚い支援制度となっています。

私たちは、不妊治療を行っている夫婦の経済的負担軽減に努め、引き続きこの事業を推進していく所存です。佐伯市の未来を見据え、多くの家族が希望を持てるよう支えていきたいと考えています。



ご寄附の目標金額

200万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②事業案内に企業名等掲載します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市子宝支援事業では、ご夫婦の経済的な負担を減らすだけでなく、相談にも丁寧な対応を心がけて支援を行っています。不妊治療を受けているご夫婦に広く制度を活用していただき、新たな生命の誕生を共に喜びあえることを期待しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：福祉保健部　こども福祉課　のむら



佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

地域クラブ活動支援プロジェクト

部活動の地域展開により創設された「地域クラブ活動」のより良い環境を整えたい！

国は、少子化に伴い、学校単位での部活動を持続することが困難になっている状況を踏まえ、拠点を地域のクラブに移行することで、こどもたちが将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に取り組むことができる環境整備を目指すこととしました。

佐伯市においても、少子化の影響は大きく、部活動を維持すること、特にチームスポーツの部活動を学校単位で構成することが困難になっています。また、活動・指導経験のない教員が部活動指導をせざるを得ないことによって、生徒の多様なニーズに応じた指導を行うことが難しくなっています。

そこで、佐伯市では、こどもたちのスポーツや文化芸術活動に親しむ活動の場や専門的な指導が受けられる環境の創出に向け、休日の部活動を中心に、中学生の活動の受け皿となる「地域クラブ活動」に移行する取組を進めています。

地域クラブ活動支援事業

佐伯市教育委員会では、学校部活動の教育的価値を引き継ぎ、スポーツや文化芸術活動を通じて生徒の健全な成長を支援する「地域クラブ活動」の認定を行っています。

現在30以上の団体が「地域クラブ活動」の認定を受け、活動していますが、その数は今後も増加する予定です。

その運営をサポートするために、「地域クラブ活動支援補助金」で支援していきます。









寄附をお願いする背景・理由

「地域クラブ活動」を運営するには、用具の購入や大会参加費、保険料や指導者への謝礼など、さまざまな費用がかかります。現状、クラブごとに会費を徴収するなどして、保護者がその費用を負担していますが、将来にわたって持続可能な活動にするためには多くの課題があります。

そこで、保護者の負担を軽減して、こどもたちがより参加しやすく、活動に集中できる環境を整えていきたいと考えています。

このプロジェクトは、生徒たちに多くの体験と選択肢を提供するものです。どうかご支援をお願いいたします。





















ご寄附の目標金額

佐伯市教育委員会が認定した**「地域クラブ活動」への補助金400万円が**目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②活動の案内や報告等に協力企業として広報します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。



担当者メッセージ



学校部活動の地域展開は、「地域のこどもたちは、学校を含む地域全体で育てる」という考えのもとで進めています。これにより、生徒が望ましい成長を遂げられるよう、地域の実情に合った持続可能で多様な環境を整えていくことを目指しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：教育委員会　学校教育課　かどた



佐伯市総合運動公園
遊具広場リニューアルプロジェクト
～未来の遊び場を築く～

こどもたちの成長を支える大型遊具施設をリニューアルしたい！

佐伯市総合運動公園内にある市内唯一の大型遊具施設は、地域のこどもたちに安全で楽しい遊び場を提供し、健やかな成長をサポートします。企業の皆様の地域貢献を通じて、ブランディングやネットワークの強化が期待され、企業イメージの向上にもつながります。このプロジェクトは、こどもたちの成長と企業の成長をともに実現することを目指しています。

市内唯一の大型遊具施設を改修し、安全で楽しさをアップ！

佐伯市総合運動公園は、市民のスポーツや憩いの場として広く利用されているだけでなく、スポーツキャンプ地としても賑わっています。この公園には、体育館、プール、野球場、人工芝グラウンド、陸上競技場、テニスコート、多目的広場、遊具広場、セミナーハウスなどが徒歩圏内に整然と集まった魅力的な施設が揃っています。

しかし、遊具広場の遊具は建設から 25 年が経過し、老朽化が進んでいる状況であり、安全性を確保するために遊具広場の整備を行う必要があります。

この整備事業により、市内外のこどもたちが安心して遊べる環境が整えられます。また、親子や地域住民が交流できる場所としての機能も向上させ、コミュニティとしての絆を深めることを目指します。

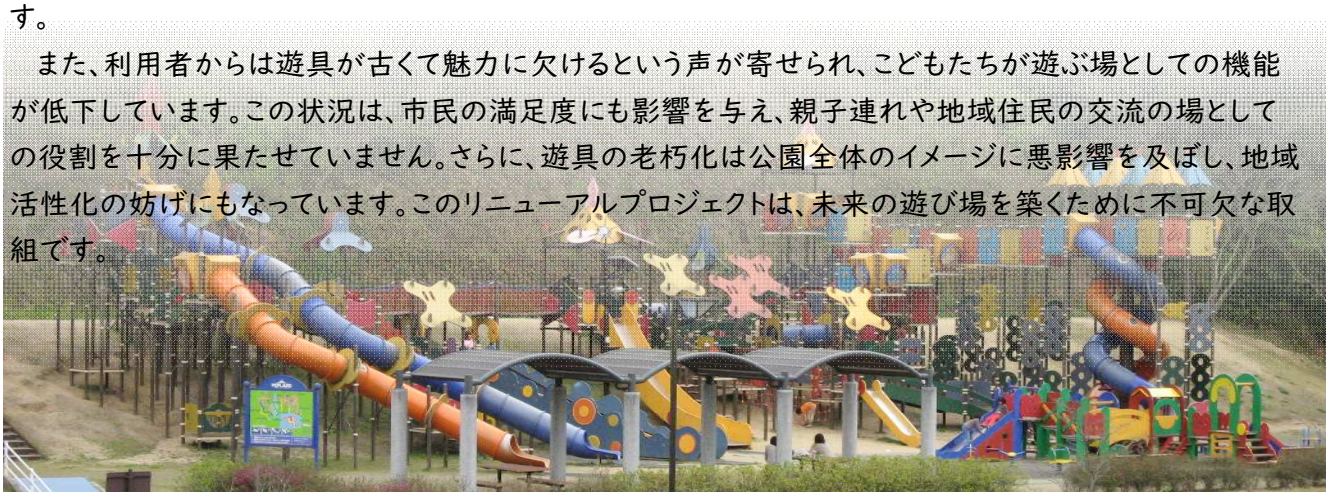




25年が経ち古くなった大型遊具施設

遊具は設置から25年が経過し古くなっています。点検と修繕を実施している中で、修繕箇所が年々増えている状況です。このため、安全基準を満たさなくなる危険性が高まり、事故のリスクが懸念されています。

また、利用者からは遊具が古くて魅力に欠けるという声が寄せられ、こどもたちが遊ぶ場としての機能が低下しています。この状況は、市民の満足度にも影響を与え、親子連れや地域住民の交流の場としての役割を十分に果たせていません。さらに、遊具の老朽化は公園全体のイメージに悪影響を及ぼし、地域活性化の妨げにもなっています。このリニューアルプロジェクトは、未来の遊び場を築くために不可欠な取組です。



地域の未来を支える遊び場リニューアルプロジェクト

地域のこどもたちに安全で楽しい遊び場を提供することは、健全な成長に不可欠です。遊具のリニューアルにより、こどもたちが心身を育むための環境を整えることができます。遊具が充実することで、市内外から親子や地域住民が集まりやすくなり、交流の場としての役割が強化されます。

地域コミュニティの絆が深まることは、地域全体の活性化にも寄与します。人々が集まることで情報交換や協力が生まれ、住民同士のつながりが強化されます。

さらに、安全で豊かな遊び場があることで、地域への愛着が高まり、地域の魅力が向上します。これらの取組は、こどもたちの成長を支えるだけでなく、地域全体の活性化にもつながるため、皆様のご支援を賜りたいと思っています。

ご寄附の目標金額

5,000万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信をします。
②企業名の入った銘板を設置します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市総合運動公園の遊具広場は、こどもたちの安全な遊び場として重要です。老朽化した遊具をリニューアルし、地域の絆を育む場所として整備します。企業の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：教育委員会　体育保健課　いけだ

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

佐伯市民大学「令和四教室」プロジェクト



幅広い分野で学び、佐伯人（さいきびと）として、クオリティの高い市民生活の実現を目指して！

講師を招く費用や講座の運営費を充実させることで、質の高い教育プログラムの提供が可能になり、受講生が多様な学びの機会を得られるようになります。プロジェクトを持続的に発展させるためには、財源の確保が極めて重要です。地域住民の参画を促し、地域全体での人材育成に対する意識を高めることで、最終的には、地域の活性化や次世代のリーダー育成につながることを目指しています。

佐伯市民大学「令和四教室」プロジェクトとは…

佐伯市民大学「令和四教室」は、令和2年度に設立され、地域の人材育成を目的とした教育プログラムです。

このプロジェクトは、佐伯市が抱える多様な課題や急速に変化する社会情勢に対応できる、柔軟かつ適応力のある「佐伯人」を育てることを目指しています。

受講生は、地域の著名な講師による豊富な知見を得る講演に参加し、さまざまな視点から問題を考える機会を提供されています。

また、少人数制のゼミナール形式の講座では、より深い学びと実践をうながす環境を整えています。このようにして、受講生は個々の特性を活かしながら、実践的なスキルや知識を習得することができます。最終的には、養成されたリーダーたちが地域の活性化に貢献し、次世代へと受け継がれていくことを目指しています。

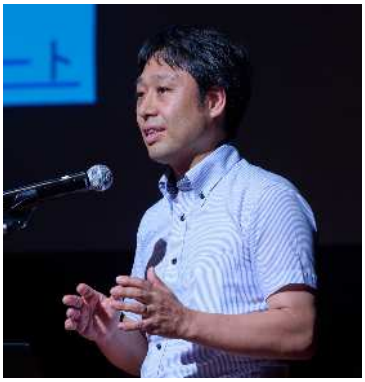


講師の選定

佐伯市が抱える多様な課題や急速に変化する社会情勢に対応できる、柔軟かつ適応力のある「佐伯人」の育成を図るため、講師は大学の教授や企業の役員、著名人などにお願いしています。

講師を選定する際は、佐伯市出身の有識者や「佐伯人」育成のテーマに合致する方にお願いしています。







地域の未来を築く「令和四教堂」プロジェクトを続けるために

佐伯市民大学「令和四教堂」プロジェクトでは、地域の持続可能な発展に寄与する人材を育成しています。教育を通じて得られる知識やスキルは、地域の課題解決に直結し、地域コミュニティを活性化させる力を持っています。また、プロジェクトは参加者同士のネットワークを形成し、お互いの刺激となる場を提供します。これにより、地域の結束力を高め、若い世代に対する地域愛や参画意識を育むことができます。将来のリーダーを育成し、全ての市民が「佐伯人」としての誇りを持てる社会を実現するために、今後もこのプロジェクトを継続していきたいと考えています。

ご寄附の目標金額

佐伯市民大学「令和四教堂」の講師料・運営費・講座運営団体への補助金**200万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②講演会で紹介します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市民大学「令和四教堂」は、地域の未来を担う人材を育成することに力を注いでいます。私たちのプログラムは、柔軟で適応力のある「佐伯人」を育て、地域の課題に立ち向かう力を養います。受講生は地域の著名な講師から多様な知見を学び、地域活性化につながるリーダーを生むことを期待しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：総合政策部　政策企画課　くらおか

文化と若者の力で挑む「さいき次世代賑わい創出プロジェクト」



文化やイベントを「消費」から「未来への投資」へ。若者が離れないまちづくり。

・ 若者の流出防止：地方都市における「楽しみや挑戦の場の欠如」を打開したい。
・ 成功体験の提供：若者が自ら企画・運営する場を提供・支援することで、郷土への愛着（シビックプライド）を醸成したい。
・ 文化享受の地域格差解消：地方にいても一流の文化芸術に触れられる場所としてのホールを維持したい。

さいき次世代賑わい創出プロジェクトとは

「鑑賞」「普及・育成」「賑わい創生」の3本柱の通年プログラムにより街を活性化したい。

1 鑑賞事業：一流との出会い（感性の刺激）
・ 音楽や演劇など多様なジャンルの公演を実施。
・ 学生招待の取組も充実。

2 普及・育成事業：若者が挑戦できる環境を提供
・ 学校の枠を超えた文化祭とプロのアーティストの招聘を交えた「SAKUフェス×若者によるアーティストライブ企画事業」の企画運営を10代が中心の実行委員会形式で挑戦。

3 創生事業：賑わいや経済効果を街へ波及
・ 「さいき大道芸フェスタ」など周辺施設を巻き込んだイベントを開催し、街の回遊性向上を図る。



持続可能な文化創出への挑戦

・「SAKUフェス×若者によるアーティストライブ企画事業」は、若者の熱意と地元企業の御協賛により支えられていますが、若者が希望するアーティストを招致するにはホールのキャパや若者が求めやすい価格のチケット収入では事業費を賄えないため、財源の持続可能性が課題となっています。
・「大道芸フェスタ」や「大道芸アカデミー」を単なるイベントに留めず、パフォーマーを志す若者の育成コース設立など、さらに一歩踏み込んだ取組が必要なタイミングを迎えています。

若者の成功体験が佐伯を創る

これらの事業を通じて、佐伯の若者が「自分たちの力で街を変えられる」という成功体験を得ることは、将来のUターンや定住意欲の向上に直結すると思います。また、1万人を超える集客の大道芸フェスタのような事業は、地域経済への波及効果も大きく、市民の郷土愛を育む貴重なものであるため、一過性に終わらせずに継続・発展させたいと思います。



ご寄附の目標額

1,000万円が目標です。
（自主事業の運営費、次世代育成プログラムの拡充、広報PR活動の強化）

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。



担当者メッセージ



さいき城山桜ホールは、ただの箱物ではありません。ここは、市民の想いをカタチにする場所。若者が夢をカタチにしていく場所です。企業の皆様の御寄附は、単なる資金援助ではなく、佐伯の未来を創る若者たちの「応援」としての投資です。ぜひ彼らのサポーターとして、佐伯の未来を一緒に創っていただけないでしょうか。
担当：地域振興部　文化芸術交流課　なかしま・いしまる



高齢者の運転免許証自主返納を応援し 安全・安心なまちづくりに繋げたい！

佐伯市における高齢者（70歳以上）の交通事故は、年間に発生する交通事故の約3割を占めています。また、高齢者が起こす事故の内容は重大事故が多くなっている状況です。そこで、高齢者による交通事故の抑制を図ることを目的として、佐伯市では「高齢者運転免許証自主返納支援事業」を行っています。

高齢者運転免許証自主返納支援事業とは

70歳以上の市民の方が、運転免許証を自主返納した後に、市内公共交通機関の利用補助が受けられる事業です。支援の内容は、コミュニティーバス利用料免除やタクシー乗車券の交付です。返納者自らの生活にあった支援を選択することができます。



高齢ドライバーの免許返納における課題

佐伯市に住む多くの高齢者にとって車は「生活の足」であり、免許を返納することは、「買い物に行けなくなるのでは」「外出の機会が減ってしまう」など不安を伴う決断です。

運転に不安を感じ、免許の返納を考えてはみたものの、その後の移動手段に不安を感じ返納をためらう人もいます。返納後の不安を少しでも解消するため、公共交通機関の利用支援を行うことで、移動手段のきっかけづくり・あわせて公共交通の利用促進が期待されます。 企業版ふるさと納税の御支援は、そのような高齢者の不安を少しでも解消するために交付する、タクシー乗車券に利用させていただきます。

交通事故のない安全・安心なまちづくりを目指して

高齢者による交通事故の防止は、自治体のみならず社会全体で取り組むべき課題となっています。

交通事故は、被害者・加害者双方の人生を大きく台無しにしてしまいます。

まずは高齢者の運転免許証自主返納を促進することで、交通事故のない安全・安心なまちづくりにつなげていきます。



ご寄附の目標金額

230万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



運転に不安をかかえる高齢者の方が、運転免許証の自主返納をしやすいよう令和8年度から支援内容を一新しました。交通事故のない安全・安心なまちづくり実現のために皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：総務部　総務課　　せいけ

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

空の公園（空の展望所）芝桜再生プロジェクト



心のやすらぎや癒しを感じられる空間を目指して！

大分県佐伯市は「日本一の花のあるまちづくり」を基本理念とし、市内全域に四季折々の花のにぎわいを創出する取り組みを行っています。

その一つである米水津地区の「空の公園（空の展望所）」は、標高およそ160mに位置する眺めのよい公園です。展望所からは米水津湾や日向灘を一望でき、当地区を代表する観光スポットです。

「空の公園（空の展望所）」では芝桜を植栽し、訪れる観光客の皆さまが心のやすらぎや癒しを感じられる空間づくりに取り組んでいます。

空の公園（空の展望所）の芝桜再生とは・・・

令和5年3月「第2次さいき花の楽園構想実行計画」を策定し、佐伯市米水津地区では「空の公園よのうづ花テラス事業」として、芝桜をメインに植栽し、年間を通じて管理しています。

「空の公園（空の展望所）」では、近年の夏場の異常な高温や降雨量減少、株自体の経年劣化などから、芝桜が枯れることが増えてきました。対策として土壌改良、株の密集や蒸れ防止をおこない、芝桜再生へ取り組み始めたところです。

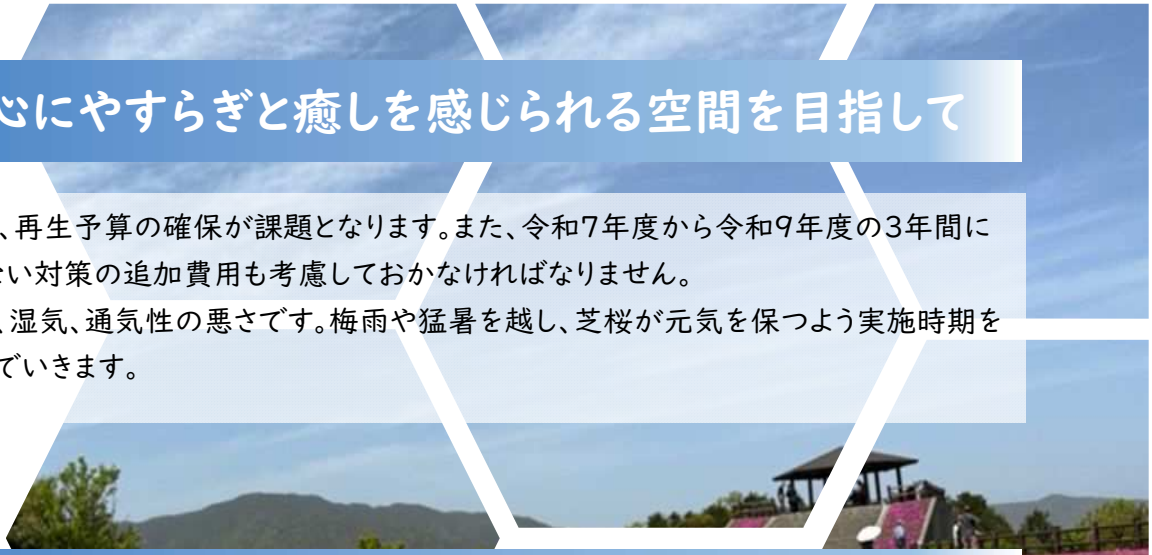
令和7年度から令和9年度を芝桜再生期間と位置づけ、芝桜圃場整備（費用7，359千円）と苗の植栽（費用594千円）をおこなっています。

米水津地区を代表する観光スポット「空の公園（空の展望所）」芝桜を再生し、来訪者数の増加を目指します。

訪れる人々の心にやすらぎと癒しを感じられる空間を目指して

芝桜再生の取組では、再生予算の確保が課題となります。また、令和7年度から令和9年度の3年間に植栽した芝桜を枯らさない対策の追加費用も考慮しておかなければなりません。

芝桜が枯れる原因は、湿気、通気性の悪さです。梅雨や猛暑を越し、芝桜が元気を保つよう実施時期を調整しながら、取り組んでいきます。



持続可能な米水津地区「空の公園（空の展望所）」の魅力づくり

米水津地区「空の公園（空の展望所）」は、観光スポットとして貴重な財産です。「第2次さいき花の楽園構想実行計画」趣旨のとおり、山・川・海などの豊かな自然を将来に渡って守り続けていく必要があります。

「空の公園よのうづ花テラス事業」では、令和9年度の来訪者数9,000人を目標とし、毎年、園内の植栽管理に取り組んでおり、「空の公園（空の展望所）」は現在も多くの観光客が訪れ、米水津湾や日向灘を一望する眺望を楽しみ、芝桜により心にやすらぎや癒しを感じていただいています。

また、毎年元日には「空の公園」からの初日の出を迎える「サンライズウォーク」イベントを開催しています。



ご寄附の目標金額

令和8年度から令和9年度の空の公園芝桜圃場整備費用と、芝桜苗代を併せて**450万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②企業名の入った銘板を設置します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市米水津地区「空の公園（空の展望所）」は、観光スポットとして貴重な財産です。展望所から米水津湾や日向灘を一望する眺望を楽しみ、芝桜により心にやすらぎや癒しを感じていただければ幸いですが、近年の夏場の異常な高温や降雨量減少、株自体の経年劣化などにより芝桜が枯れることが増え、現在再生へ取り組み始めたところです。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：市民生活部　環境対策課　おの

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

地域福祉活動支援プロジェクト



地域福祉活動推進のために！

地域福祉活動を推進していく中核的役割を担う佐伯市社会福祉協議会の活動を後押ししたい！

佐伯市では、佐伯市社会福祉協議会と「地域福祉計画・地域福祉活動計画」を一体的に策定し、「健康で安心して暮らせる共生社会の創生」を基本理念として、「孤独・孤立ゼロ」の地域づくりの推進、「佐伯ならでは」の包括的な相談支援の推進、誰一人取り残さない「全員参加支援」の推進の3つの基本方針を共有し、協働して地域福祉を推進しています。

佐伯市社会福祉協議会は、行政が実施する公的事業以外の様々な福祉事業を実施しており、行政の手が届きにくい課題の解消に寄与するなど本市の福祉を支える上で重要な存在となっています。

地域福祉活動とは

地域の人と人をつなぐ「地域づくりに向けた支援」、課題を抱えた人・世帯を専門職等につなぐ「包括的な相談支援」、課題を抱えた人・世帯を地域とつなぐ「参加支援」という「3つの支援」を一体的に推進していくために市と佐伯市社会福祉協議会が連携して実施していくものです。

佐伯市社会福祉協議会が実施する地域福祉事業としては、地域行事への支援、ボランティアの活動啓発・支援や民生委員児童委員の活動促進、地区社協の活動支援のほか、災害に備えた地域防災講座への講師派遣や防災教育プログラム事業の実施、災害ボランティアネットワーク協議会の運営等に加え、災害時にはボランティアセンターの設置を行います。

こども福祉分野では、子育てサロンの運営支援や社協ちびっこフェスティバルを開催します。

また、多方面にわたる困りごとの解決のため、弁護士による無料法律相談会や民生委員による心配ごと相談会の開催等も行っています。

その他にも独居世帯への相談・見守り・就活などの支援や障がい者福祉サービスの充実に努めています。

佐伯市社会福祉協議会の活動は、佐伯市の地域福祉になくてはならないものとなっています。

社会福祉協議会への支援について

地域福祉活動における佐伯市社会福祉協議会の活動は佐伯市が実施する福祉に関する諸事業を補完する意味合いがあると考えます。社会福祉協議会が活動を行うための自主財源である会費も事業費の40%程度にとどまることから、当該地域福祉活動の実施については佐伯市から補助金を支出しています。

しかし、本市の財政状況も他の自治体同様に余裕がある状況にないことから今後も安定した支援が行えるとは言い切れない状況です。

事業支援が実施できない事態に陥れば、地域福祉の衰退につながる懸念があります。





なぜ社会福祉協議会の活動を後押ししたいのか

佐伯市社会福祉協議会は、主体となる事業のほか地域住民の相談・援助活動を行う民生委員・児童委員協議会の事務局等福祉組織の統括を担っているほか、20の地区社会福祉協議会とも連携し地域住民が自ら地域課題を解決していく活動の支援を行っています。

この様にきめ細やかな介護、障がい、育児、貧困など世帯全体の複雑・複合化したニーズを的確に捉え、部局を超えた調整を通じて課題の見立てや支援をコーディネートする機能は行政では行き届かないところもあり、社会福祉協議会の活動は本市の地域福祉の推進に大きな比重を占めていると言えます。

近年の厳しい財政状況の中にあって社会福祉協議会への支援は困難な状況ではありますが、佐伯市の安定した福祉活動の確保のために皆様のご支援を賜りたいと考えています。

ご寄附の目標金額

600万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市では、地域福祉活動推進の中核的役割を担う佐伯市社会福祉協議会と協働して地域福祉を推進しています。

佐伯市社会福祉協議会は、行政が実施する公的事業以外の様々な福祉事業を実施しており、行政の手が届きにくい課題の解消に寄与するなど本市の福祉を支える上で重要な存在となっています。

皆様のご支援をいただき、さらにその活動を後押ししたいと考えております。ご協力を心よりお願い申し上げます。

担当：福祉保健部　福祉保健企画課　くろき

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

佐伯市「再起」支援プロジェクト



地域全体の安全・安心な暮らしを築くために、犯罪予防や青少年の健全育成に努めて！

犯罪予防や青少年の健全育成は、地域全体の安全・安心な暮らしを築くために不可欠な課題です。その中で、保護司会、更生保護女性会、BBS会などの活動団体は、地域に根ざしたきめ細やかな支援を通じて、更生者や非行少年の立ち直りを促進し、安全な社会づくりに大きく寄与しています。

しかし、これらの活動の維持・拡充には資金と人材が必要です。新たな資金調達手段として「企業版ふるさと納税」を活用し、企業様からのご支援を募ることで、更生者や非行少年の「再起」を後押しします。

保護司会、更生保護女性会、BBS会への活動支援

企業様からいただいた寄附金を元に、「犯罪者更生支援活動」の具体的な取組を推進します。

例えば、更生保護女性会による子育て支援や地域住民との交流事業、BBS会による青少年交流プログラムなど、多岐にわたる活動資金として活用されます。

これらは単なる経済的支援にとどまらず、「地域ぐるみで見守り合う社会」の実現につながります。



活動資金や人材の不足

保護司会、更生保護女性会、BBS会などの団体はボランティアによって運営されており、十分な資金や人員の確保が難しい状況です。

特に高齢化が進む中で、若い世代の参加者が減少し、今後の継続的な活動の維持が困難になることが懸念されています。

一人ひとりが安心して暮らせる豊かな地域づくり

本事業は「犯罪抑止」と「青少年育成」の両面から持続可能なまちづくりにつながります。

今後も行政と民間企業が協働し、安全・安心な地域づくりを推進していくために、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ご寄附の目標金額

50万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②活動の案内や報告等に協力企業として広報します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市では、保護司会や更生保護女性会の防犯・犯罪更生活動を応援するため、企業版ふるさと納税を募集しています。皆様のご寄付は、地域の安全確保や非行少年の立ち直り支援に役立ちます。温かいご支援を通じて、安心で住みよい街づくりにご協力ください。

担当：福祉保健部　福祉保健企画課　やまだ



高齢者が生きがいを持って安心して暮らしていける地域社会の実現を目指して！

佐伯市では、九州一広い面積を持つことから、地域ごとの特色を生かした地域づくりを推進し、高齢者が生きがいを持って安心して暮らしていける地域社会の実現を目指しています。

佐伯市全体での高齢化率は42.38%（令和7年5月末時点）ですが、市中心部の高齢化率は30%台である一方、周辺部では50%を越えており、地域間での年齢別人口構成の差が顕著になっております。

高齢者にやさしい地域づくりの推進

佐伯市においても、少子高齢化の影響から一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加傾向にあります。本市では、「高齢者等地域支え合い体制づくり支援事業」として、2つの取組を行っています。

①救急時に必要な事項を記載した「緊急情報キット」を配布

救急時に高齢者本人と意思疎通できないときでも迅速かつ適切に対応できるよう、かかりつけ医療機関や緊急連絡先等を記載した「緊急情報キット」を各世帯に配布します。

②高齢者の定期的な見守り

緊急情報キットは配布するだけでなく、民生委員の皆さんに毎年情報の更新作業を行っていただくことで、各地域で顔の見える関係を構築しています。

誰もが「つながる」地域共生社会の実現に向けて

事業開始当初と比較すると、年々対象となる高齢者が増加しており、地域福祉を支えている民生委員の皆様の負担も増加傾向にあります。

また、身寄りのない高齢者が増加傾向にあることから、緊急情報キットの内容についても、「もしものとき」に対応できるものへと見直し、更に高齢者の安心に資する事業へとアップデートしていく必要があります。

いつまでも安心して暮らしていける地域を実現するために

誰もが安心して暮らせる地域社会の実現のためには、佐伯ならではの地域包括ケアシステムを深化・推進していかなければなりません。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域全体での支え合いが不可欠であり、これからの佐伯市に即した、高齢者の見守りの仕組みづくりを進めていきたいと考えています。





ご寄附の目標金額

130万円が目標です。
（佐伯市は、実施団体へ事業費の補助を行います。）

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②高齢者世帯に配布する案内等に企業名を掲載します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。



担当者メッセージ



佐伯市の高齢者が属する世帯に対し、高齢者のかかりつけ医療機関や緊急時連絡先などの情報を保管する「緊急情報キット」を配布しています。この情報を共有することで、緊急時や災害時の支援体制を整えることが可能となり、高齢者の安全と安心の確保を図ることができます。

皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：福祉保健部　高齢者福祉課　くすめぎ・かんざき

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

まちなかで”ひとよこい”
佐伯へ”人よ来い”ベンチ設置プロジェクト



歩きたくなる魅力的で活力あるまちづくりのため まちなかに「ひとよこいベンチ」*1を設置します！

第2次佐伯市都市計画マスタープランでは、魅力ある市街地の形成を重要な柱としてあげ、特に大手前・市役所周辺、JR佐伯駅・港周辺を主要な拠点と位置づけ、市民や観光客等が賑わいを感じられるよう努めています。

このエリアでは、回遊性を高め、観光による交流を促進することで、歩いて楽しい、活力ある魅力的な市街地拠点の形成を目指しまちなかにベンチを設置します。

*「ひとよこい」とは、佐伯の方言で「ひと休み」のことを言います。また、「人よ来い」とも掛けています。

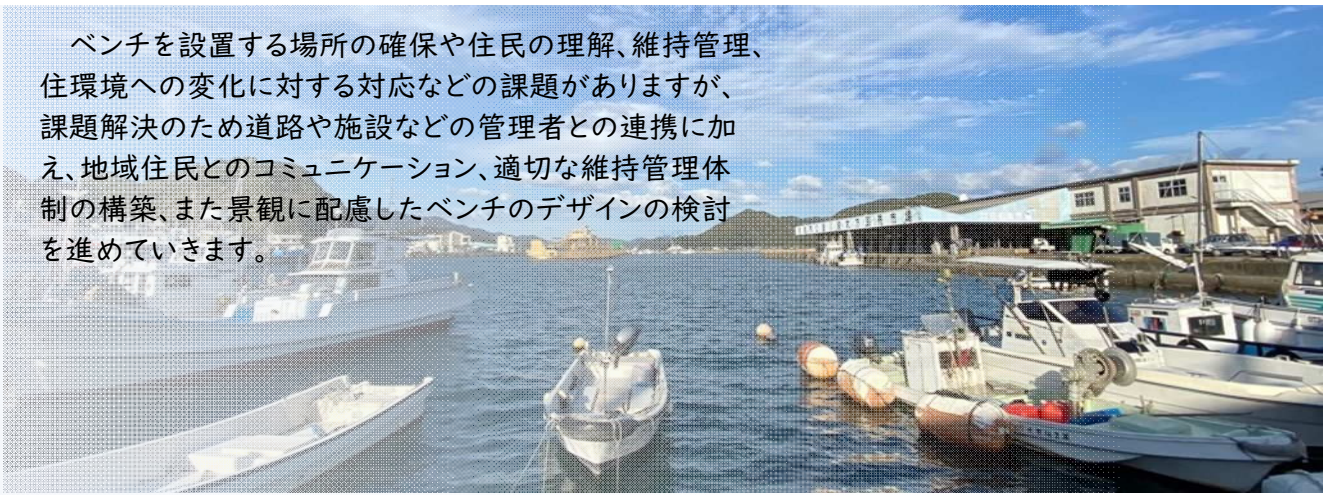
まちなかで”ひとよこい” 佐伯へ”人よ来い” 名付けて「ひとよこいベンチ」

大手前・市役所周辺、JR佐伯駅・港周辺エリアの通り沿いなどに市民や観光客が利用できる「ひとよこいベンチ」を設置します。

まちなかにベンチを設置することで、市民や観光客などへ休憩場所の提供、コミュニティの活性化、まち歩きの快適性向上、高齢者や子育て世代への配慮に加え、観光客などの滞在時間の延長による観光消費額の増加にもつなげていきたいと考えています。



行政、市民、企業で一緒にまちづくりに取り組みます



ベンチを設置する場所の確保や住民の理解、維持管理、住環境への変化に対する対応などの課題がありますが、課題解決のため道路や施設などの管理者との連携に加え、地域住民とのコミュニケーション、適切な維持管理体制の構築、また景観に配慮したベンチのデザインの検討を進めていきます。

まちづくりに、終わりはありません

「ひとよこいベンチ」の設置は、継続的に行う必要があります。人の流れの変化に合わせた設置台数の見直しや場所の変更などに加え、紫外線や雨風等の自然要因と、利用による摩耗や損傷による修繕・交換などのコストも発生します。まちづくりに終わりはなく、継続して取り組んでいく必要があります。そのためにも皆様の支援をお願いしたいと思っています。

ご寄附の目標金額

200万円が目標です。(5基程度を予定)
ベンチの仕様、場所の選定及び設置は佐伯市が行います。
老朽化等により利用することが難しいと、佐伯市が判断した場合は、撤去又は移設することがあります。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②寄附いただいたベンチに企業名やメッセージなどを刻印したプレートを取り付けます。
③100万円相当以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市では歩きたくなる街、歩いて楽しい街を目指し中心市街地のまちづくりに取り組んでいます。今回のプロジェクトである「まちなかで“ひとよこい” 佐伯へ“人よ来い”ベンチ設置事業」では、佐伯市街地に「ひとよこいベンチ」を設置し、市民や観光で訪れる方が休憩でき、自然と会話が弾む空間をつくりたいと考えています。「ひとよこいベンチ」がきっかけで新たな出会いや発見が生まれ、より佐伯市を楽しんでいただけることを期待しています。

このプロジェクトの実現には、企業の皆様の温かいご支援が必要です。共に佐伯市の魅力を高め、訪れる人々に愛されるまちを作り上げていけるよう皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当:建設部 都市計画課 ごとう



地域に愛されてきた「かっぱ橋」の復旧を目指す！

大分県佐伯市弥生地区に架かる「かっぱ橋」は、人と自然の調和を重視した多自然型の水辺空間の形成を目的とした水辺プラザ整備事業の一環として、平成11年に設置されました。

以来長年にわたり、地域住民に愛されてきた「かっぱ橋」ですが、令和6年の台風10号により、橋の一部が流失し、現在通行不能となっています。このため、再び地域に愛される「かっぱ橋」の姿を取り戻したいと考えています。

「かっぱ橋」とは

市民の憩いの場や地域振興の拠点として活用することを目的としたエリアに整備されており、弥生番匠公園、山王公園をつなぐ橋となっています。道の駅やよいも隣接しており、これらをつなぐ遊歩コースとして地域住民はもとより、観光客にも広く愛されています。

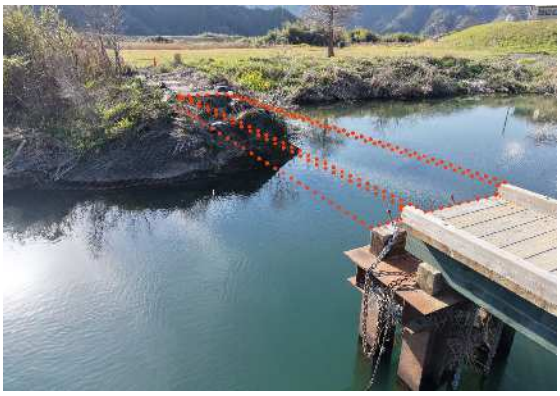
「かっぱ橋」は木橋で、あたたかみが感じられるつくりになっています。歩くとギシギシ音が鳴り、揺れも感じられるため、子供たちにも人気があります。

また橋の上から魚など、多くの水生生物を眺めることができるため、水辺に親しむという意味でも非常に大きな役割を持った橋といえます。



「かっぱ橋」復旧内容

流出した部分は、山王公園側から約10mの橋桁及び床版で、今回のプロジェクトでは、この流失した部分を新たに作成し、再度設置するものです。復旧前と同じく木橋で復旧を行います。



「かっぱ橋」は、潜水橋と呼ばれる橋の一種で、普段は通行可能ですが、河川の増水時にはその橋面が水中に沈み込んでしまいます。一般的に潜水橋は流水の影響を受けやすいため、大半はコンクリート製です。そのため、木製の「かっぱ橋」は他の橋と比べて破損や流出のリスクが高いと言わざるを得ません。
しかし、地域に愛されるこの橋は、親しみやすさと美観を重視して木製で造られており、憩いの場としてこのエリアに欠かせない存在となっています。

ご寄附の目標金額

500万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



このエリア一帯は、美しい番匠川楽しむ方々が集う憩いのスポットになっています。
かっぱ橋のもとの姿を取り戻すことで、国道を通ることなく、エリアを周回できるようになるため、非常に利便性も高い橋梁となっています。皆様の温かいお心添えをよろしくお願いいたします。

担当：建設部　建設保全課　しおつき

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

未来につなぐ水の安心プロジェクト



自然災害に強いまちづくりへ向けた上下水道施設の更新と耐震化をめざして！

佐伯市では、今後想定される南海トラフ地震やスーパー台風、線状降水帯による豪雨など、激甚化・頻発化する自然災害に対応するため、上下水道施設の更新・耐震化を推進しています。上下水道は「見えないが最も重要な命のインフラ」です。

しかし、佐伯市では設備の多くが老朽化しており、大規模災害時の長期間断水や下水道機能停止のリスクを抱えています。

これらの課題解決には、皆様の力が必要です。

このプロジェクトは、自然災害に強い町づくりの一環として、地域の安全と住民の命を守るための重要な取組です。

城山東配水池更新について

城山東配水池は、計画日最大供給量7,300トンを誇り、佐伯市の中央部へ水道水を供給する中心的な役割を担っています。

この配水池が被災し断水となった場合、およそ6,500世帯、12,000人への水道水供給が停止します。昭和41年に築造されたこの配水池は59年が経過し、必要な耐震能力を保持していないことから、令和5年度より更新事業に着手しています。

今回の更新により、耐震性が向上することで、大規模地震の際の断水リスクを軽減が見込まれます。

事業費とその将来負担

今後、令和11年度までの事業継続を予定していますが、その間の事業費は約10億円を見込んでいます。財源の一部である国費以外の不足する部分については自主財源、企業債での対応となるため、その償還にあたって将来負担が生じます。この負担を少しでも減らすことが課題となっています。

「安全」「強靭」「持続」

良質な水をいつでも安心して利用でき、災害・事故に強く、環境変化に対応できる水道を、将来につなげていきたいと考えています。

このプロジェクトを通じて構築される強靭な水道施設は、災害発生時でも地域の持続可能な発展を支える重要な基盤となり、安全で安心な水の確保は地域住民にとっての生命線です。



ご寄附の目標金額

2,250万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②更新後の配水池敷地内に銘板を設置します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



昭和41年に築造された城山東配水池は、計画日最大供給量7,300トン、佐伯市の中央部へ水道水を供給する中心的な役割を担っていますが、59年前の構造物であり、現在必要とされている耐震基準を満たしていません。この配水池が被災し断水となった場合、およそ6,500世帯、12,000人への水道水供給が停止します。このため大規模地震の際の断水リスク軽減など非常時にも安全・安心な水道水の供給を目指して、令和5年度から更新事業に着手しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：上下水道部　営業課　まつだ



「南海トラフ巨大地震」に備えて、備蓄が必要な食糧・生活必需品・資機材の購入を進めたい！

30年以内の発生確率が60～90%程度以上となっている「南海トラフ巨大地震」が発生すると、佐伯市では、津波や建物・斜面崩壊等による死者が約8,500人、避難・疎開者が約30,000人と想定されています。

こうした災害に備え、平常時から「命を守る防災・減災対策」に取り組み、避難・疎開者等のため、飲料水・液体ミルク・アルファ化米などの食糧、毛布・おむつ・歯ブラシなどの生活必需品、発電機・浄水装置・集合トイレなどの資機材等の備蓄物資の購入を進めています。

命を守る防災プロジェクトとは・・・

命を守る防災プロジェクトは、「佐伯市備蓄計画」に基づき、食糧のローリングストックなどを含め、年度ごとに備蓄物資の購入を進めているものです。期限切れ間近の飲料水などは、避難訓練等実施時に参加者に配布するなどにより、利活用しています。備蓄資機材については、通常時、防災訓練等にて利活用を予定しています。

九州最大面積(903.14k㎡)を有する佐伯市において、「南海トラフ巨大地震」発生時は、避難・疎開者が広範囲に及ぶと想定されています。各避難所等に速やかに備蓄物資を運搬・配布するため、複数の大型備蓄倉庫を設置し、分散備蓄しています。





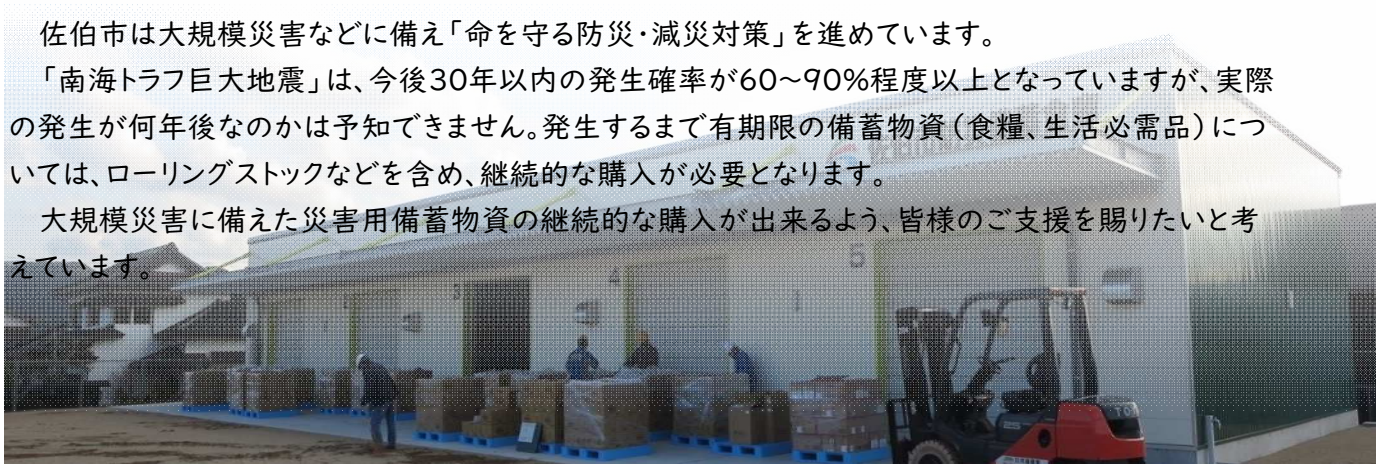
「南海トラフ巨大地震」が発生するまで続く備蓄食糧等のローリングストック

国・県補助金、市債等備蓄食糧等の継続的購入に係る特定財源として活用できるものがなく、市の一般財源による継続的な予算確保が厳しい状況です。





災害用備蓄物資整備が継続的に必要なのか



佐伯市は大規模災害などに備え「命を守る防災・減災対策」を進めています。

「南海トラフ巨大地震」は、今後30年以内の発生確率が60~90%程度以上となっていますが、実際の発生が何年後なのかは予知できません。発生するまで有期限の備蓄物資（食糧、生活必需品）については、ローリングストックなどを含め、継続的な購入が必要となります。

大規模災害に備えた災害用備蓄物資の継続的な購入が出来るよう、皆様のご支援を賜りたいと考えています。

ご寄附の目標金額

「佐伯市備蓄計画」に基づく災害用備蓄物資の購入費用**1,000万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②購入した災害用備蓄資機材に企業名を記載します。
③訓練等における利活用時に多くの市民の目に触れます。
④100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



30年以内の発生確率が60~90%程度以上と予測されている南海トラフ巨大地震に備えて、発災時に想定されている約3万人の避難・疎開者に対する食料や飲料水、毛布やおむつなどの生活必需品など、各種備蓄品を計画的に購入し、平常時から「命を守る防災・減災対策」に取り組んでいます。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：防災局　防災危機管理課　もりさき



佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

多目的防災車両更新プロジェクト

大規模災害に備えて、多目的防災車両の更新をしたい！

30年以内の発生確率が60～90%程度以上となっている「南海トラフ巨大地震」が発生すると、佐伯市では、津波や建物・斜面崩壊等による死者が約8,500人、避難・疎開者が約30,000人と想定されています。

こうした被害を軽減するため、平常時から災害に備えた「命を守る防災・減災対策」を進めています。

多目的防災車両は、各種訓練における人員・物資輸送、避難路・避難地・避難所の現地確認・維持管理、風水害や火災発生時の現地確認・各種支援等において、活用しています。

多目的防災車両更新とは・・・

佐伯市の多目的防災車両は、購入後22年が経過し、老朽化が進んでいます。また、現状は普通自動車・用途特殊・自家用・消防車・5人乗りの形状ですが、より多くの人員・物資等の運搬が可能となるよう、7人乗りに更新したいと考えています。

九州最大面積（903.14k㎡）を有する佐伯市において、災害発生時などに機動的・緊急的に活動するために、機能向上を伴う多目的防災車両の更新は必要不可欠であると考えています。



多目的防災車両更新の予算確保

国・県補助金、市債等、車両更新に係る特定財源として活用できるものがなく、市の一般財源による予算確保も困難な状況です。

なお、車両そのものの物納が有難いと考えています。物納の場合は、車両の仕様等について要相談となります。

多目的防災車両が継続的に必要なのか

佐伯市は大規模災害などに備え「命を守る防災・減災対策」を進めています。

九州最大面積（903.14k㎡）を有する佐伯市において、各種訓練における人員・物資輸送、避難路等の現地確認・維持管理、風水害や火災発生時の現地確認・各種支援等において、老朽化した多目的防災車両の更新は必要不可欠です。

車両を更新し、災害発生時などに広い佐伯市内において安全・安心に活動し続けることができるよう、皆様のご支援を賜りたいと思っています。







ご寄附の目標（物納）

多目的防災車両１台が目標です。
※車両の仕様等について要相談となります。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②多目的防災車両に企業名を記載します。訓練等における活動時に多くの市民の目に触れることや、毎年、隣接する宮崎県延岡市の水防訓練に当該車両で参加しているため、多くの延岡市民の目にも触れます。
③ご寄附をいただいた場合は、市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附の内容、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



多目的防災車両は、風水害や火災発生時の現地確認・各種支援等を目的に、急行することはもちろんのこと、各種訓練における人員・物資輸送、避難路・避難地・避難所の現地確認・維持管理に活用していますが、購入後22年が経過し、老朽化が進んでおり、ドアのロックが解除できない等支障が発生しております。災害発生時などに機動的・緊急的に活動するために、機能向上を伴う多目的防災車両の更新は必要不可欠であると考えています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：防災局　防災危機管理課　まつやま

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

地域の安全を支える「消防団積載車更新プロジェクト」



九州最大の面積を誇る佐伯市で地域の安全と安心を守るために！
自分たちが住んでいる地域は自分たちで守る！

佐伯市消防団は、9方面隊1379名の団員と132台の積載車で昼夜を問わず、消火活動や、地震、台風、大雨などの自然災害から地域住民の安心と安全を守っています。
また、南海トラフ地震発生の可能性も高まり、消防団には、今後も地域に根ざした防災の要としての活動が期待されています。

しかし、九州一広い佐伯市には多くの消防団積載車が配備されているため、車両の更新には20年以上を要している状況です。

消防団積載車の役割は・・・

消防団の積載車は、地域の災害対応を担う機動力と装備を兼ね備えた重要な車両であり、消火活動のため現場へ団員と資機材を迅速に搬送でき、即応体制を確保しています。また、拡声器や回転灯を備えており、大規模災害時の避難誘導や、火災予防週間には、地域を巡回して火の用心を呼びかけ、住民の防火意識向上に役立っています。

さらに、消防団積載車は、地域に常駐し、住民にとっては「防災力のシンボル」として見える安心の存在となっています。

消防団活動の活性化と士気の向上

装備の充実は団員の安全を守り、活動意欲にも直結します。

人口減少、高齢化の進展、被雇用者の増加等の社会情勢変化で団員確保が困難となっています。併せて団員の高齢化も進展しているため、機能別消防団員制度、消防団協力事業所表示制度、消防団応援隊制度を導入し、市報や消防本部のホームページ掲載、ケーブルテレビでの放映、各方面隊や分団による個別勧誘活動を行ってきましたが、団員減少に歯止めがかかっていないのが現状です。

特に若年層にとって、適切な装備が整備され、安全・安心な活動環境が確保されていることは、消防団活動への意欲と士気の向上に大切な要素です。消防団活動がより活性化することは、団員確保にもつながっていきます。

老朽化による安全性・信頼性の低下を防ぎたい

災害の激甚化、多様化が進む中、地域防災の一翼を担う消防団には、迅速かつ的確な対応が求められています。

地域防災力を維持・向上し、その役割を十分に果たすためにも、老朽化した積載車両や装備の更新は不可欠です。

消防団積載車の更新サイクルを早め、地域防災活動を安全・安心に行えるよう、皆様のご支援を賜りたいと思っています。



ご寄附の目標金額

消防団積載車更新の購入費用8,000万円が目標です。
※令和8年度更新予定
【佐伯（住吉）、上浦（長田）、弥生（上小倉）、本匠（笠掛）、宇目（木浦）、米水津（浦代浦）、蒲江（西野浦）】

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②購入した消防団積載車に企業名を記載します。
③佐伯市消防団出初式にて寄附企業の紹介をします。
④100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



佐伯市では、地域防災力の要である消防団活動のため、老朽化した消防団積載車の更新を進めています。積載車は火災や災害時にいち早く現場に駆けつけ、活動にあたる消防団の重要な装備です。皆様のご支援により、地域の安全を守る消防団積載車を整備し、災害に強いまちづくりを実現していきたいと考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

担当：消防本部　消防総務課　うめだ



寄附を募集する理由

豊後二見ヶ浦では毎年の大しめ縄張替えに加え、年末年始にライトアップや初日の出前の打上花火を実施しています。地域住民の手によって受け継がれてきたこの伝統行事は、多くの来訪者に親しまれています。こうした地域の魅力を今後も広く発信し、伝統行事を大切に受け継いでいくため、企業版ふるさと納税によるご支援をお願いするものです。

豊後二見ヶ浦とは…

豊後二見ヶ浦は、高さ17mと10mの夫婦岩をしめ縄で結んだ上浦地域の象徴的景勝地です。

昭和44年に地元の草野球チームが架けたことをきっかけに、地域住民の手によって毎年張替えが続けられ、半世紀以上にわたり受け継がれてきました。初日の出の名所としても知られ、県内外から多くの来訪者が訪れています。



豊後二見ヶ浦事業プロジェクトの問題点・課題

大しめ縄張替え、ライトアップ、打上花火は継続して実施していますが、近年は物価上昇の影響もあり、資材費や警備費、花火の費用等の負担が増加しています。 事業を持続可能な形で続けていくためには、安定した財源の確保が課題となっています。

また、事業を支える地域の担い手の高齢化も進んでおり、今後も多くの人に関わっていただきながら、この取組を受け継いでいきたいと考えています。

豊後二見ヶ浦事業を続けたい理由

大しめ縄は、地域住民が半世紀以上にわたり守り続けてきた上浦地域の象徴です。 年末年始のライトアップや打上花火とともに、多くの人が訪れる特別な景観として親しまれています。

地域の誇りであるこの伝統行事をこれからも大切に受け継ぎ、訪れる人々に上浦の魅力を感じていただくため、本事業を今後も継続していきたいと考えています。







ご寄附の目標金額

豊後二見ヶ浦事業のしめ縄張替え作業にかかる費用、ライトアップの設置費用、初日の出前の打上花火の費用**200万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②打上花火の際に協賛企業として紹介します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



豊後二見ヶ浦の大しめ縄は、地域の人々が半世紀以上守り続けてきた上浦のシンボルです。

この景観と伝統をこれからも大切に受け継いでいくため、皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。

担当：地域振興部　上浦振興局地域振興課　担当者　かんざき

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

夏宵まつり☆弥生プロジェクト



弥生の夏といえば「夏宵まつり☆弥生」！
弥生地域の行政・地域・個人や団体が一体となり、弥生の夏を盛り上げます！
弥生の夏を彩る「夏宵まつり☆弥生」を今後も続けていきたい！！

夏宵まつり☆弥生とは・・・

弥生地区は、九州一の面積を誇る大分県佐伯市に位置し、中心部からほど近く、豊かな自然と歴史・文化が息づく、温もりのある地区です。

そのような弥生地区で、平成28年から始まった「夏宵まつり☆弥生」は、地域密着型の祭りで行政・地域住民・地域の団体が力を合わせ、毎年8月末に開催しています。

会場では、地域の団体による多数の屋台やキッチンカーが「弥生の味」を提供し、屋外ステージでは、やよい栂牟礼陣太鼓をはじめ、弥生にゆかりのある出演者等による多彩な演目が行われます。イベントのフィナーレは、約2,000発の花火が夏の夜空を彩ります。

見て、聞いて、食べてと弥生の魅力がぎゅっと詰まった、アットホームな祭りです。



夏宵まつり☆弥生の継続

以前の弥生地区では夏の時期、多くの地区や場所で盆踊りなどの祭りが開催されていました。しかし近年は、若い人が減少し、高齢化が進んだ結果、開催できない地区が増えてきました。

そのような中、弥生地区のにぎわいを取り戻し、活性化するため、「夏宵まつり☆弥生」は誕生し、今年で11年目となります。

この事業を続けていくうえで様々な問題がありますが、一番の課題は運営に係る経費です。始めた当初から比べて、花火代や夜間照明のリース代などの経費が高騰してきており、このままでは、事業継続が困難な状況です。





なぜ夏宵まつり☆弥生を続けたいのか

様々な問題がある中、この祭りは、弥生地域の人々や団体、行政が、地域の活性化を実現するため、力を一つにして育んできました。

その結果、毎年約6,000人が来場する弥生の夏の一大イベントとして定着しました。

「夏宵まつり☆弥生」は、みんなの祭りです。弥生地域の人や弥生地域を訪れてくれた人を”笑顔”にし、人々のつながりを生み出す、この祭りを今後も継続していけるよう、皆様のご支援を賜りたいと思っています。

ご寄附の目標金額

夏宵まつり☆弥生で使用する打上花火代と夜間照明のリース費用等**100万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②花火打ち上げ時等で、協力企業として紹介します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



弥生地域では、地域の文化や伝統などの地域資源を大切にし、地域の個性が光るまちづくりに取り組んでいます。「夏宵まつり☆弥生」もその取組の一つです。今後も住んでいる人・訪れた人が”笑顔”になるように、取り組んでまいります。

最後に昨年度は、この趣旨に賛同いただき、温かいご支援を賜りました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。「夏宵まつり☆弥生」を続けていくため、引き続き皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：地域振興部　弥生振興局地域振興課　さほ



400年の伝統「因尾茶」を、次世代のアイデアで守りたい！

佐伯市本匠に400年以上受け継がれてきた特産品「因尾茶」。全国でも希少な「釜炒り製法」が生み出すお茶は、独特の釜香（香ばしさ）と藩主ゆかりの歴史を併せ持つ、唯一無二の逸品です。しかし現在、生産者の高齢化と消費者のリーフ茶離れにより、将来的な産地存続が危ぶまれています。

本プロジェクトでは、地元の本匠中学校の生徒たちが「茶育」を通じて「因尾茶」を深く学び、釜炒り茶を活用した新たな価値を提案・発信し、多くの人に「因尾茶」への興味・関心を呼び起こすことで、お茶の販売拡大と産地の生産維持へと繋げる「呼び水」となることを期待しています。

地元の中学生が地域の宝に向き合い、自ら発信する。その体験が、生産者を励まし、地域経済を動かし、因尾茶の未来を守ります。

「茶育」イノベーションによる新価値創造とは

「茶育」とは、農林水産省が推進する「学校教育の場で茶を活用した事業」で、若い世代の茶離れが進む中、こどものころから茶に親しむ習慣を育み、茶文化の普及・継承に繋げることを目的としています。

地元の本匠中学校では、400年以上の歴史を持つ「因尾茶」を教材に、茶摘みから伝統の釜炒り製法による製茶までを体験することで「地域の良さを深く知る・地域の方々と多く関わる・地域に貢献する」独自の取組を行っています。

本プロジェクトは、その「茶育」をさらに発展させ、生徒たちが自ら因尾茶の「新たな魅力の伝え方」を考え、発信することで、「本場の因尾茶を飲んでみたい・買ってみたい」という消費者行動に繋げることを目的としています。



特産品「因尾茶」を取り巻く課題

1. 希少な「釜炒り製法」の後継者不足と生産者の高齢化
2. 茶園が急傾斜地にあるため機械化が難しく、燃料・資材の高騰も重なり収益性が悪い高コスト構造
3. 消費者のリーフ茶離れと「因尾茶」の認知不足

中山間地特有の課題と現代のライフスタイルに合わせた価値の提案が必要です。

なぜ、「茶育」を通じて生産維持を行うのか

「因尾茶」の生産を持続させるためには、リーフ茶の安定した販売と適正価格での取引が不可欠です。「茶育」を通じた「釜炒り茶」の新たな活用法の提案はその「呼び水」となり、消費者をリーフ茶の購入へと誘います。
「地元の中学生が一生懸命PRしているお茶」という文脈が共感を呼び、因尾茶のブランド認知と購買意欲を高めます。ブランド価値の向上による地場産業の持続可能性に、ご支援ください。



ご寄附の目標金額

50万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②事業で制作したパンフレットに協賛企業として掲載します（希望者のみ）。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



地域経済の柱のひとつである「釜炒り因尾茶」を後世に伝え、地域の人々の生きがいづくりや里山に茶園が広がる原風景を守りたいと、本匠の将来を担う中学生たちと連携し、持続可能な地域づくりを目指します。
皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：本匠振興局　地域振興課　おおとも



宇目地域への誘客、宇目地域の活性化を図る！桜の名所として認知度アップに向けて「夜桜ライトアップ保全活動」をこの先も続けたい！！

宇目地域は、九州一の面積を誇る大分県佐伯市の南端に位置し、佐伯市の総面積の約3割を占める山間部地域です。豊かな自然に恵まれ、祖母傾国定公園内の藤河内渓谷や傾山があり、平成29年6月にユネスコエコパークに登録された地域です。

宇目地域への誘客、宇目地域の活性化を図るため、夜桜ライトアップや桜の保全活動を行っています。

夜桜ライトアップとは・・・

宇目地域には八匹原公園周辺をはじめ、桜の名所が大変多く存在します。その地域資源でもある桜の夜間ライトアップを行うことで、地域住民に桜の名所として再認識をしていただくことに加え、設置に伴う作業を地元ボランティアと協働で実施することにより、市民参加型の美しい地域環境づくりを目指しています。



桜の保全活動の継続

1973年（昭和48年度）に八匹原公園に吉野桜60本を植栽して52年が経過しています。

その他の場所でも桜の木の老朽化が進み、強風などで倒木したり、カビの一種が原因で発生するテングス病の影響で花が付かず、樹勢が衰え、桜の木が枯れる件数が年々増えています。

対策として、桜の枝の剪定やテングス病の除去などの適切な管理を行っていますが、あわせて桜の木を植栽することで対策の強化が図れます。

継続的な対策を行うことで桜の木の寿命を延ばすことができます。





なぜ夜桜ライトアップを続けたいのか

この事業は平成30年からスタートし今年度で8年目を迎えます。

3月下旬から4月上旬にかけて、八匹原公園周辺から宇目地域コニュニティセンター周辺の夜桜ライトアップを実施しています。

宇目地域に眠っている資源を再発掘し、認知度を上げるとともに、地区住民と協働で取り組むことにより郷土愛の醸成、観光振興、さらに定住の促進に繋がるこの事業を今後も継続していけるよう、皆様のご支援を賜りたいと思っています。

ご寄附の目標金額

夜桜ライトアップほか保全活動で使用するライトアップ資材と桜の木を保全するため委託料として**20万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②ライトアップ期間中に案内板に、協力企業として紹介します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



宇目地域では人口減少、少子高齢化が進む中、地域に根付いてきた文化、伝統や産業の継承が難しくなってきてます。
こうした課題を解決するため「宇目地域創生支援協議会」では宇目地域の特性を生かしたまちづくりを進めています。
現在、ライトアップの範囲を広げるため、竹や草で覆われた桜木周辺の草刈り作業を行っています。

この取組が次世代に繋げられるよう皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：地域振興部　宇目振興局地域振興課　じくまる

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業



なおかわ秋色フェスタプロジェクト

直川地域の秋を彩るイベント『なおかわ秋色フェスタ』を地域の恒例行事として、今後も永続的に開催していきたい！

なおかわ秋色フェスタとは・・・

大分県佐伯市直川地域のお祭りです。

直川地域は佐伯市のほぼ真ん中に位置し、市町村合併前は直川村として地域を形成してきました。

直川地域では直川村時代から半世紀以上にわたり、夏の風物詩として『なおかわ盆踊り大会』と最後に花火を打ち上げるお祭りを行ってきました。ここ数年は人口減少による踊り手の減少から、盆踊りに代えてステージイベント中心の『なおかわ夏祭り』に形を変え、お祭りを継続してきました。

令和7年度からは近年の夏の猛暑を考慮し、装いも新たに『なおかわ秋色フェスタ』として秋に開催しています。



なおかわ秋色フェスタの継続

夜にお祭りを開催すると照明機器の設置が必要になり、近年は物価高や人件費の高騰により費用が嵩んできていました。ステージイベントに変えたことで盆時期に開催する必要がなくなったこともあり、近年の夏の猛暑も考慮して、季節の良い秋の日中の開催に変えました。日中開催にしたことにより照明の費用の問題は解消できました。

お祭りの形を変えながら、継続していく努力を続けていますが、昨今の物価高による全般的な費用の増大に加え、花火の打ち上げについては、人件費の高騰の他に、国外の紛争による火薬の需要の増加という、想定外の理由での価格の高騰があり、費用を圧迫しています。



なぜなおかわ秋色フェスタを続けたいのか

年に一度、直川地域に住む人や、地域の出身者が帰郷し、集まる場を残したい。また地域内外の人が交流する場を設けたい。そのために直川村時代から続く”村のお祭り”を継続したいと考えています。

お祭りの最後を飾る花火はゴルフ場から打ち上げるため、ロケーション的にも珍しく、打ち上げる時間帯も日没直後の薄暮れ時で趣があります。芝生広場に座って見上げる花火は臨場感があり、来場者からも好評をいただいています。

人口減少が進み、地域のお祭りが減っていく中、直川村時代から長年続けてきた、花火のあるお祭りを今後も継続し、守っていけるよう、皆様のご支援を賜りたいと思っています。

ご寄附の目標金額

なおかわ秋色フェスタを盛り上げるステージ開催の費用やフィナーレを飾る花火打上にかかる費用
150万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市HPやSNSで発信します。
②花火打上前に協賛企業として紹介します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



直川村時代から継続してきた地域のお祭りですが、近年集客数が伸びています。盆踊りからステージイベントへの変更や、出店数を増やしたことが影響していると思いますが、やはり花火がひとつの大きな魅力として多くの人に来ていただいていると感じています。打上費用の高騰により花火大会が減少傾向にある中、今後も花火のあるお祭りを継続していけるよう、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：地域振興部　直川振興局地域振興課　さくらい

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

つるみ御用聞プロジェクト



誰かが動かなければ、この地域の暮らしは確実に壊れていく

佐伯市鶴見地域では、高齢化率55%(R8.2月末時点)を超え、さまざまな支援を必要とする高齢者等が急増しています。鶴見のような過疎地域が残っていくために福祉、医療、小売、飲食といった最低限のインフラの維持が必要だと考えています。「つるみ御用聞プロジェクト」もその一環です。なかでも食を支えるインフラとして地域の小売店の存在はとても大きいものですが、このまま手をこまねいて過疎高齢化の進展を黙って放置すれば、いずれ地域の小売店も消滅してしまいます。その危機感から「つるみ御用聞プロジェクト」が誕生しました。買い物に困っている高齢者と地元小売店をつなげるサービスを立ち上げることで、新たな需要を喚起し地域内経済が活性化する活動を行っています。

つるみ御用聞プロジェクトとは

離島大島においては商店がなくなり買い物ができなくなって困っている高齢者等が多数います。それ以外の地域にも商店までの距離が遠く買い物に困っている高齢者や足が悪く日々の買い物に行くのが困難な高齢者等が多数います。そこで行政、社会福祉協議会、ボランティアグループ、地元スーパーが連携して「つるみ御用聞プロジェクト」を立ち上げ、高齢者の見守りと買い物支援に取り組んでいます。



ボランティア人材の不足

本プロジェクトを循環させるためには、プロジェクトを支えるボランティアスタッフの存在が欠かせませんが、スタッフの人員が限られておりサービスを拡大することが困難な状態となっています。本プロジェクトを鶴見全域に拡大するためにも人材の確保が必要です。

なぜつるみ御用聞プロジェクトを続けたいのか



鶴見地域では高齢化率が55%を超え、買い物ひとつままならない高齢者が急増しています。地域の小売店が消えれば、日々の食すら手に入らなくなる方が出てきます。「つるみ御用聞プロジェクト」は、困っている高齢者と地元商店をつなぐことで、生活を支えると同時に地域経済を守る取り組みです。誰かが動かなければ、この地域の暮らしは確実に壊れていきます。支援を届けるたびに「ありがとう」の声をいただきます。その声が、続ける力の源です。人が人を支え、地域が地域を守る。その循環を絶やさないために、このサービスを続けていきたいと思います。

ご寄附の目標金額

本プロジェクト運営に係る費用のうちボランティアの活動資金**100万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

・佐伯市ホームページやSNSに掲載します。
・活動用車両に企業名等をラッピングすることも可能です。
・市長からの感謝状贈呈が可能です。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



鶴見振興局では、固定概念にとらわれず自由な発想を具現化し、地域を元気にする取組を行っています。「つるみ御用聞プロジェクト」も生活支援事業ですが、あえて地域振興策の一環として取り組んでいます。地域の経済が元気になれば地域の人たちも元気になります。どうかこの地域の人々に元気を届ける活動を支援していただければ幸いです。
担当：地域振興部鶴見振興局地域振興課　はまさき

佐伯市企業版ふるさと納税活用事業

米水津おさかなまつりプロジェクト



佐伯市米水津の海産物を味わっていただくために！
今後も、地域の伝統である米水津おさかなまつりを続けていきたい！
米水津地域が一丸となり、佐伯市・米水津地域の特産品販売等を行い、地域の魅力（味力）を発信していきます！

米水津おさかなまつりとは・・・

米水津おさかなまつりは、毎年10月下旬の日曜日に開催している米水津地域のビッグイベントです。市町村合併前の旧米水津村の時代から継続しているまつりで、毎年、約8,000人の来場があります。

ステージイベントの他に人気のブリッコレースや伊勢海老・ヒラメ釣り、まつりのフィナーレでは海産物等が当たる福餅投げを開催しています。

その他に各種屋台、キッチンカー、米水津の特産品（海産物）の販売を行い、佐伯市の魅力（味力）の発信をしています。



米水津おさかなまつりの継続

旧米水津村の時から40年以上継続している地域のふるさとまつりですが、物価高騰等の要因でまつりの存続危機に直面しています。まつりで大人気の催しであるブリッコレースや伊勢海老・ヒラメ釣りで使用する活魚代、会場設営費用、音響や駐車場警備の委託料等、様々な物の価格が高騰しているため、毎年、限られた予算の中で試行錯誤し、規模を縮小しつつなんとか継続できている状況です。

この状況が続くと、今後のまつりの開催が困難となります。







なぜ米水津おさかなまつりを続けたいのか

昭和59年から始まった佐伯市米水津地域の伝統ある祭りで、地域に根差したものとなっています。祭りでは、米水津地域の特産品（海産物）はもちろんのこと、佐伯市の特産品を食べていただき、多くの来場者に喜ばれています。

また、ステージイベントや米水津地域の特色を出した催し物に参加し、笑い楽しんで地域の魅力（味力）を堪能していただきたいと思っています。

今後もこの祭りを継続することで、米水津地域の魅力（味力）を発信し、地域を活性化していくため、皆様のご支援を賜りたいと思っています。

ご寄附の目標金額

米水津おさかなまつりのステージイベントの企画費、ステージレンタル料、音響や駐車場警備の委託料等の費用**100万円**が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載・公式SNSで発信します。
②ステージイベントの際に、協力企業として紹介します。
③100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



毎年、米水津地域最大のイベントである米水津おさかなまつりを開催しています。

約8,000人が来場される旧米水津村の時から継続しているまつりです。

ステージイベントのほか、人気のブリッコレースや伊勢海老・ヒラメ釣り、まつりのフィナーレでは海産物等が当たる福餅投げ等、米水津地域の魅力（味力）を堪能していただける催し物を行っています。

今後もこのまつりを継続し、地域の魅力（味力）を発信していただきたいので、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：地域振興部　米水津振興局地域振興課　ごとう



葛原神楽は、明治25年に大野郡清川村より伝承された御嶽流岩戸神楽で、昭和56年に県指定の無形民俗文化財に指定されました。先人の方々の多大なる努力により、伝承されてから一度も途絶えることなく、今年で133年を迎えています。令和5年に神楽殿を建設し、これまでの春と秋に催される年2回の地区祭典のほか、令和5年度から市内外の神楽保存会をお招きし、定期公演を行い交流人口の増加に繋げています。

御嶽流岩戸神楽の伝承

旧蒲江町では唯一の御嶽流岩戸神楽である葛原神楽は、明治25年に大野郡清川村字宇田枝から伝承された大野系岩戸神楽で、同村の加藤社家に古くから伝えられたものと言われています。

葛原神楽は、面を着けない直面で扇・扇子・鈴・ご幣などの採り物だけで舞う佐伯神楽に較べると、配役ごとに面・衣装を異にする演劇的な神楽です。大野系の岩戸神楽の演目ごとの構成や、舞い方の古い姿を受け継いでいることが高く評価されています。



神楽の保存・継承活動

葛原地区に古くから伝わる神楽文化は、地域の誇りであり、大分県の伝統芸能の一役を担う貴重な財産です。しかし、人口減少による後継者不足や財政的な課題があり、継続的な活動が困難になりつつあります。



なぜ葛原神楽の保存・伝承を続けたいのか

葛原に神楽が伝承されて、今年で133年を迎えます。葛原神楽は、その荒々しい拍子や舞の特徴から太鼓、衣装、小道具等の劣化も著しく、適宜補修して使用してきているものの、限界が来ています。地域のみの力で衣装等を新調することは、高額のため困難です。

葛原神楽の永続的な継承のため、衣装等の新調ができれば、祭員の士気を高め、次世代への伝習につながると考えています。

令和5年に神楽殿を建設後は、定期公演を開催するなど、神楽の保存・継承活動にチカラを入れています。地域内外との交流人口の増加が地域の活性化に繋がり、持続可能な地域となるため、皆様のご支援を賜りたいと思っています。

ご寄附の目標金額

50万円が目標です。

ご寄附いただいた場合の企業様のメリット

①佐伯市ホームページに掲載、公式SNSで発信します。
②100万円以上のご寄附には市長から感謝状を贈呈します。
※企業名もしくは寄附金額、またはいずれも非公表とすることもできます。

担当者メッセージ



葛原神楽は、大野郡清川村より伝承された御嶽流岩戸神楽で、昭和56年に県指定の無形民俗文化財に指定され、地区民をあげて、今日まで伝承されてきました。神楽殿が建設されてから、市内外の神楽保存会を招き定期公演を開催するなど、神楽の保存に向けて取り組んでおり蒲江地区の神楽保存会の中心的な存在になって来ています。これからの地区の活性化になることを期待しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

担当：地域振興部　蒲江振興局地域振興課　しおつき

企業版ふるさと納税について

企業様の税制上の優遇措置

企業版ふるさと納税制度を利用して寄附いただいた場合、従来の地方公共団体に対する寄附に係る損金算入措置（約3割）に加えて、最大で寄附額の約6割に相当する法人関係税が軽減されます。

損金算入による軽減効果	法人住民税＋法人税	法人事業税	企業負担
約3割	4割	2割	約1割

※上記は令和2年度から令和9年度までの措置です。また、控除が最大となった場合です。

お手続きの流れ

1 【企業様】
寄附申出書に必要事項を記入いただき、政策企画課までメールでお送りください。
送付先：sseisaku@city.saiki.lg.jp

2 【佐伯市】
内容を確認し、納付書を送付又はお振込みいただく口座をお知らせします。

3 【企業様】
ご入金をお願いいたします。

4 【佐伯市】
当市への着金を確認後、受領書を送付します。
受領証は税控除の手続きで必要となりますので、保管をお願いいたします。

ご注意いただきたい事項

①1回あたり10万円以上の寄附が対象となります。
②寄附を行うことの代償として、経済的な利益を受けることは禁止されています。
③佐伯市内に本社（地方税法における「主たる事務所又は事業所」）のある法人は対象外です。

お問い合わせ先

皆様のお問合せ、ご支援をお待ちしております。

佐伯市総合政策部　政策企画課
所在地　〒876-8585　大分県佐伯市中村南町1番1号
TEL　0972-22-4104（直通）　メール　sseisaku@city.saiki.lg.jp

ホームページはこちらから

オンライン申請はこちらから